

脊振山～夏の昆虫

福岡市天神の夏。

うるさいほどの蝉時雨。その正体はクマゼミです。

同じとき、背振山を臨む早良区脇山付近。アブラゼミの声が聞こえてきます。

標高 500 メートルの背振ダムあたりまで登ってくると、ヒグラシが鳴いています。

湿地のガマの群落には、トノサマバッタやシオカラトンボもいます。

標高 1055 メートル。背振の山頂です。山頂のすぐ下には、ブナが生い茂っています。

水が湧き出すブナの林は、福岡市の大切な水源になっています。

(ここでも、セミが鳴いてるよ)

すぐそこに見えるのが、背振の山頂です。標高が千メートルちょっとですね。この山頂一帯がですね、ブナ帯。ブナの林ですね。

ちょっと耳をすましてみてください。ギーギーと鳴いているのが、エゾゼミです。聞こえますでしょうか？エゾゼミは、背振山のこの高さに来ないといないセミなんですね。

実はエゾっていうのは、北海道のことですよ。それがついたセミなので、北海道から九州まで分布は広いんですね。分布は広いんです。

で、九州では千メートル以上の標高のところに棲んでいるということなんですね。

クマゼミと同じくらいの大きさなんですよ、体はですね。鳴き声は今聞いたように、非常に大きい。

エゾゼミは、ブナの木の上のほうにいます。声は聞こえますが、葉が茂っているため、姿を見つけることができません。

ブナの木の下に、ヤマアカガエルがいました。

ブナの幹に生えたきのこにとまっている、クロヒカゲ。

こちらは、ブナの木で休んでいるヤマキマダラヒカゲです。

ブナの幹にヨコヤマヒゲナガカミキリの穴を見つけました。

このヨコヤマヒゲナガカミキリというのは、ブナの幹をえさにしているわけですね。だからこれに卵を産みつけるし、幼虫もこの幹で育ってですね、成虫になるというやつです。

これはですね、ヨコヤマヒゲナガカミキリのさなぎがこの中にいたわけですね。この中でさなぎから成虫に羽化して、で、こう食い破って出てきた跡なんですよ。

で、この食い破って出てくる穴というのは、だいたいブナの幹の根っこ付近に多いです。これはヨコヤマヒゲナガカミキリの成虫が出た跡なんです。

だから体の形がこのブナの幹に非常に似た色合いの、保護色なんですね。北は青森の白神山地からですね、南のほうまで分布は広いんですけども、非常に数が少ない。その中で、背振山のブナ林は、特にその中では顕著に産地として有名なんですね。

いました。これがヨコヤマヒゲナガカミキリです。いま穴から出てきたばかりでしょう

か。ブナの幹の上で体を温めているようです。

ブナの林から、少し下りてきました。

尾根にはアカガシの林が広がり、ミンミンゼミが鳴いています。

アカガシの林には、幼虫のときにこの葉を食べて育った蝶、キリシマミドリシジミが棲んでいます。

小型で美しいミドリシジミの仲間は、「風の精」と呼ばれています。その中でも背振山のキリシマミドリシジミは、特に美しい蝶として知られています。

7月に成虫となったキリシマミドリシジミは、アカガシの芽に卵を産みつけ、2週間ほどの短い命を終えるといえます。

アカガシの林は、キリシマミドリシジミのゆりかごなのです。

(ずーっと大切にしたいね！)